

分類 番号	A1	取組 名称	京丹後市内における学校・公民館・寺社などの地域史資料の調査・整理・保存に関する研究
研究代表者：	文学部	職・氏名：	教授・小林 啓治
研究担当者：	京都府立大学（小林啓治、東昇） 外部分担者・協力者（小山元孝氏、福島幸宏氏）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府京丹後市教育委員会		
<b>【研究活動の要約】</b>			
(1) 学校資料の整理と目録作成、翻刻の実施 ・学校資料（吉原小学校）の調査と整理を実施した。 (2) 「京丹後市網野町域の戦争モニュメント」の刊行 ・史学専攻大学院生が中心になって、調査・整理を行った。 (3) 「丹後の村から見た戦争」展示の企画・解説 ・平成 27 年 7 月～10 月まで、京丹後市立丹後古代の里資料館夏季企画展として行われた上記展示のコンセプトを協議。展示物の選定と解説にも取り組む。 (4) 「大丹後展—日本のふるさと」の企画・実施 ・史学専攻の院生 6 人が、期間中に 4 回の展示解説を実施。 ・同展覧会の図録の作成に協力。図録は平成 27 年 10 月に刊行。			
<b>【研究活動の成果】</b>			
(1) 学校資料の整理と目録作成、翻刻の実施 ・田村小学校の学校日誌の 1940 年～1943 年分を翻刻。 (2) 「京丹後市網野町域の戦争モニュメント」の刊行 ・史学専攻大学院生が中心になって、調査の結果をまとめ、平成 28 年 3 月に報告書として刊行。 (3) 「丹後の村から見た戦争」展示の企画・解説 ・期間中の 2 日間、院生 2 人が解説を行った。また、展示物に関する詳細なパンフレットも作成。 (4) 「大丹後展—日本のふるさと」の企画・実施 ・史学専攻の院生 6 人が、期間中に 4 回の展示解説を実施。 ・同展覧会の図録の作成に歴史学科教員が協力。図録は平成 27 年 10 月に刊行。			
<b>【研究成果の還元】</b>			
(シンポジウム) 平成 27 年 12 月 12 日 京丹後市峰山総合福祉センター 2 階コミュニティホール（参加者 180 人） シンポジウム：「大丹後展の見どころを探る」（菱田哲郎・横内裕人・藤本仁文、コーディネーター：小林啓治） （報告書）「京丹後市網野町域の戦争モニュメント」（府大図書館で閲覧可）			
<b>【お問い合わせ先】</b>			
文学部 小林研究室 教授・小林啓治 Tel: 075-703-5254 E-mail: orochi@kpu.ac.jp			

丹後地方の村に残された太平洋戦争関係の資料を展示する「丹後の村から見た戦争―村人と兵隊―展」が京丹後市丹後町の市立丹後古代の里資料館で開かれている。9日には今回の展覧会を京丹後市教委と共同で企画した府立大大学院の院生2人が展示品について解説を行った。同様の解説は23日にも予定されている。

1回生で史学を専攻している前正義(まへよしみ)さん(23)と中山凌(なる)さん(24)。府立大文学部歴史学科は昨年度から京丹後市教委と連携して、市内の公民館や寺社などに残る地域史の資料について「地域貢献型特別研究」(ACTR)を行っており、今回の展示もその一環。

院生らはこの春から準備にかかり、市立網野郷土資料館の館蔵品の中から展示品を選んだり展示方法などについて工夫を重ねるなどしてきた。

展示品は46点で、千人針や戦地からの手紙などの「出征兵士の姿」、赤紙受領書、村葬の弔辞などの「村人の出征・帰還・戦死」、竹やりや翼賛紙芝居などの「村のくらしと戦争」の3部構成とした。

解説ではそれぞれの資料がどのように使われたかを来場者を相手にくわしく話した。解説を終えた中山さんは「戦争というと普段の生活から遠いもののように想像していたが、これらの展示品からは人々の生活が感じられ、戦争と生活が密着していたことがわかりました」と話していた。

同展は市立網野郷土資料館でも開かれている。いずれも9月6日まで、市立丹後古代の里資料館は火曜休館、市立網野郷土資料館は火・土・日曜だけ開いている。

## 「丹後の村から見た戦争」展 大学院生が展示品解説



展示品について解説する大学院生(左)  
—京丹後市立丹後古代の里資料館

(産経新聞 2015 (平成 27) 年 8 月 11 日)

シンポジウム (2015 (平成 27) 年 12 月 12 日) 於: 京丹後市峰山総合福祉センター

- ①遺跡から探る交流の歴史 (菱田哲郎)
- ②中世丹後の神仏と信仰 (横内裕人)
- ③海と川が繋ぐ丹後の江戸時代 (藤本仁文)
- ④パネルディスカッション「丹後展の見どころを探る」(コーディネーター: 小林啓治)

